經濟論叢

第139巻　第1号

菱山泉教授記念號

献　　辞……池上　惇
経済表のプロブレマティーク……平田清明　1
ロックにおける貨幣数量説のミクロ的基礎……根岸　隆　22
関係レントとその分配交渉……浅沼萬里　39
消費者余剰とローザンヌ学派……山下　博　61
均斉成長の不均衡動学分析……山谷恵俊　82
機械化と労働雇用……塩沢由典　109
1930年代の経済学再考……伊東光晴　130
資本の限界効率と使用者費用……瀬地山敏　156

菱山　泉 教授 略歴・著作目録

昭和62年1月

京都大學經濟學會

蓋山 吳教授近影

菱山　泉 教授 記念論文集

献　　辞

菱山泉先生は，昨年の８月，63歳の誕生日を迎えられ，昭和61年度の学期末をもって，本学を退官されることとなりました。

先生が歩んで来られました歳月は，第二次世界大戦の期間を含み，わが国の社会と文化が，まさに，大規模な激動を経験した時期にあたっております。

先生は，昭和24年に京都大学経済学部を御卒業ののち，終始一貫して，理論経済学研究の道を歩まれ，昭和42年から，本学における経済原論担当者として，内外の高い声価を得られて今日に至りました。これらは，私どもの最も誇りとするところであります。

昭和37年，「重農学説と経済表の研究」により経済学博士を取得されました先生は，つねに古典と現代を統合しつつ，通説を力強くくつがえして，新しい視点から経済理論に光をあて，新しい理論を世に問い，これらの過程で，多くの御業績を公表されました。

公表された業績に対する内外の反響はきわめて大きく，スラッファ，ネムチノフなどとの国際的な交流をすすめられるとともに，先生の学風を慕う多くの学徒が研究室の扉をたたき，経済学界における新しい波をつくりあげて来られました。

先生は，また，京都大学経済学部長，評議員として1970年代における京都大学と経済学部の苦難の時代をになわれ，今日における大学と学部の発展の基礎を築いて来られました。経済学部は，文字通り身を削るような極限状況のなかにおける先生の御苦労と本学への御貢献を深く胸に刻んでおります。

京都大学経済学会は，先生の多年にわたる御功労と数多くの御業績に対し，敬意と感謝の気持をこめて，記念号を編集致しました。

先生の同学の方々，また，ご指導を賜りました方々の意欲的な労作を集めることができ，ここに先生におおくりできますことは，わたくしどものこの上ない慶びであります。

先生の益々の御清栄を願い，刊行の御挨拶と致します。

1987年1月

京都大学経済学部長　池　上　　惇